

大気汚染防止法に係るばい煙発生施設の設置（使用・変更）届出について

1 届出に必要な書類

- (1) ばい煙発生施設設置（使用・変更）届出書 . . . 様式 1
- (2) ばい煙発生施設の構造 . . . 別紙 1
- (3) ばい煙発生施設の使用の方法 . . . 別紙 2
- (4) ばい煙処理の方法 . . . 別紙 3
- (5) 工場・事業場周辺の地図（縮尺のあるものが望ましい）
- (6) 工場・事業場の敷地内の建物等の配置図
- (7) 届出施設の設置場所を記載した工場・事業場の平面図
- (8) 届出施設の構造等概要図（カタログ等でも可）
- (9) 煙突等の概要図（立面・排出口高・頂口径・煙道図・測定口の位置）
- (10) 処理施設の構造概要図（カタログ等でも可）
- (11) ばい煙の発生及び処理に係る操業系統の概要
- (12) 緊急連絡用の電話番号その他緊急時における連絡方法
- (13) 燃料の分析表（S 分・比重等）
- (14) ばい煙の計算書・濃度測定データ
- (15) その他必要な（県が指示する）書類
- (16) 委任状（届出者に代表権がない場合は必ず必要）

※（１）～（１２）については必ず必要。

変更届出の場合は変更前及び変更後の内容を対照させること。（５）～（１２）のうち変更のないものは、先に提出した書類の提出日、書類名、変更がないことを明示することで省略可。

2 提出方法

- (1) 提出先 ばい煙発生施設を設置しようとする地域を所管する保健所衛生環境課（新宮保健所串本支所は保健環境課）
- (2) 提出部数 ４部（うち１部は届出者控え）
※和歌山県では、環境関連法令の届出等について、市町村（和歌山市を除く）に情報提供していますので、ご理解、ご協力願います。

3 ご注意点

ばい煙発生施設を設置又は変更する際は、届出が受理された日から 60 日を経過した後でなければ、そのばい煙発生施設の設置、変更は出来ません。（実施の制限）

ただし、実施制限期間の短縮について通知を受ければ実施（着手）可能日よりばい煙発生施設の設置、変更が出来ます。

なお、届出が受理された日は、各保健所が受付を行った日となります。

4 お問い合わせ先

環境生活部 環境政策局 環境管理課 環境保全班
TEL (073)441-2683 FAX (073)441-2689

若しくは、各保健所衛生環境課（新宮保健所串本支所は保健環境課）

※こちらに記載の内容は和歌山市以外の和歌山県内の届出についてのものです。和歌山市内の届出については和歌山市環境政策課にお問い合わせ下さい。

様式第1

ばい煙発生施設設置~~(使用、変更)~~届出書

今回届出をする日付 → 令和〇〇年〇〇月〇〇日
を記入してください。

和歌山県知事 様

法人の場合、登記した本店
住所、商号、代表者を記載
してください。



和歌山県和歌山市〇〇1丁目1番1号

届出者

株式会社〇〇〇
代表取締役 〇〇 〇〇

氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名

大気汚染防止法第6条第1項(~~第7条第1項、第8条第1項~~)の規定により、ばい煙発生施設について、次の
とおり届け出ます。

工場又は事業場 の 名 称	株式会社〇〇〇△△工場	※整 理 番 号	
工場又は事業場 の 所 在 地	〇〇郡〇〇町△△1111-11	※受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設 の 種 類	「1項 ボイラー (1基)」 「10項 無機化学工業品の製造の用に供 する反応炉 (2基)」 「10項 食料品の製造の用に供する直火 炉 (1基)」 など	※施 設 番 号	
ばい煙発生施設 の 構 造	別紙1のとおり。 大防法施行令別表第1に掲 げる項番号及び名称、基数	※審 査 結 果	
ばい煙発生施設 の 使 用 の 方 法	別紙2のとおり。 を記入してください。	※備 考	
ばい煙の処理 の 方 法	別紙3のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		1		
名称及び型式		「貫流ボイラー」、「廃棄物焼却炉」 〇〇株式会社製 型式：AAA-AAAA000 など	←名称、メーカー名、型式を記載してください。	
設置年月日		年 月 日	←空欄	
着手予定年月日		平成〇〇年〇〇月〇〇日	←ばい煙発生施設の設置に係る工事着手する予定の日付を記載してください。 届出日から60日以後の日付であること。	
使用開始予定年月日		平成〇〇年〇〇月△△日	←ばい煙発生施設の使用を開始する予定の日付を記載してください。 届出日から60日以後の日付であること。	
規 模	伝熱面積 (m ²)	15	該当する規模の欄に記載してください。	
	燃料の燃焼能力 (重油換算L/h)	100		<div>重油換算量</div> <div>重油 10ℓ = 液体燃料 10ℓ</div> <div>重油 10ℓ = ガス燃料 16m³</div> <div>重油 10ℓ = 固形燃料 16kg</div> <div>として換算</div> <div>(昭和46年8月25日環大企第5号)</div> <div>ただし、「31 項 ガス機関」の場合、以下の式で換算</div> <div>重油換算量 (ℓ/h)</div> <div>= 換算係数 × 気体燃料の燃焼能力 (m³N/h)</div> <div>換算係数</div> <div>= 気体燃料の発熱量 (kcal/m³N) ÷ 重油発熱量 (kcal/ℓ)</div> <div>上式の気体燃料の発熱量は総発熱量を用いることとし、</div> <div>重油発熱量は 9,600kcal/ℓ とすること。</div> <div>(平成2年12月1日環大規384号)</div> <div>「2 項 ガス発生炉のうち水蒸気改質方式の改質器であ</div> <div>って水素の製造能力が 1,000m³N/h 未満の施設 (気体状の</div> <div>燃料及び原料のみを使用するものに限る) 及び燃料電池</div> <div>用改質器」の場合、以下の式で換算</div> <div>重油換算量 (ℓ/h)</div> <div>= 換算係数 × 気体燃料の燃焼能力 (m³N/h)</div> <div>換算係数</div> <div>= 気体燃料の発熱量 (kJ/m³N) ÷ 重油発熱量 (kJ/ℓ)</div> <div>上式の気体燃料の発熱量は総発熱量を用いることとし、</div> <div>重油発熱量は 40,000kJ/ℓ とすること。</div> <div>(平成29年1月6日環水大大発第1701061号)</div>
	原材料の処理能力 (t/h)			
	火格子面積又は羽口 面断面積 (m ²)	火格子面積：4		
	変圧器の定格容量 (kVA)			
	触媒に付着する炭素 の燃焼能力 (kg/h)			
	焼却能力 (kg/h)			
	乾燥施設の容量 (m ³)			
	電 流 容 量 (kA)			
	ポンプの動力 (kW)			
合成・漂白・濃縮能力 (kg/h)				

備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、
届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の
2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の
と。
3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小した
もの又は既存図面等を用いること。

工場又は事業場における施設番号		1			
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	AM9時～PM3時 6時間/回 1回/日 20日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月	
	季節変動	「通年(変動なし)」 「12月～2月のみ使用」 など			
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに 限る。)	種類				
	使用割合				
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分
	1日の使用量				
燃料又は電力	種類	「A重油」「灯油」「LPG」 など		←混焼等、複数の燃料を使用する場合は並記してください。	
	燃料中の成分割合(%)	灰分 0.1	いおう分 0.1	窒素分 0.1	←成分表を参考に記載してください。 ※成分表の値をそのまま記載するのではなく、使用する可能性のある最大値(保証値)を記載してください。
	発熱量	「46,000kJ/kg」 「9,600kcal/ℓ」 など			
	通常の使用量	80(重油換算ℓ/h)		←通常の運転状態の数値を記載してください。	
	混焼割合	「専焼」 「混焼 A重油:灯油=1:1」 など			
排出ガス量(m³/h)		湿り	最大 1,240	通常 990	←計算書に基づき記載してください。 最大:施設の最大能力運転時の数値 通常:通常の平均的な運転時の数値
		乾き	最大 1,140	通常 920	
排出ガス温度(℃)		200			
排出ガス中の酸素濃度(%)		4			
ばい煙 の濃度	ばいじん(g/m³)	最大 0.05	通常 0.05	←排出基準が適用される項目について、計算書に基づき記載してください。 最大:施設の最大能力運転時の数値 通常:通常の平均的な運転時の数値	
	いおう酸化物(容量比ppm)	最大 53	通常 53		
	カドミウム及びその化合物(mg/m³)	最大	通常		
	塩素(mg/m³)	最大	通常		
	塩化水素(mg/m³)	最大	通常		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素(mg/m³)	最大	通常		
	鉛及びその化合物(mg/m³)	最大	通常		
	窒素酸化物(容量比ppm)	最大 100	通常 100		
ばい煙量	いおう酸化物(m³/h)	最大 0.06	通常 0.05		
参考事項	成分割合は重量比%				

備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。

2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態(この項において「標準状態」という。)

における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。

3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。

4 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。

5 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号				「処理－1」 「1号煙突」など		
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号				1		
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式				バグフィルター 〇〇社製 ASD-1111FG		←処理施設がある場合記載してください。
設置年月日				年 月 日		←別紙1と同様に記載してください。既設の処理施設の場合は設置年月日も記載。
着手予定年月日				平成〇〇年〇〇月〇〇日		
使用開始予定年月日				平成〇〇年〇〇月△△日		
処理能力	排出ガス量	最大	排出ガス量 (m³/h)	1,240	←湿りガス量を記載してください。	
			通常	990		
		排出ガス温度 (°C)	処理前	300		
			処理後	200		
	ばい煙の濃度	ばいじん (g/m³)	処理前	5	←処理の対象となる項目について、最大値で記載してください。 (捕集効率0%の項目は記載不要) 処理前後の濃度と捕集効率に矛盾がないようご注意ください。	
			処理後	0.05		
		いおう酸化物 (容量比ppm)	処理前			
			処理後			
		カドミウム及びその化合物 (mg/m³)	処理前			
			処理後			
		塩素 (mg/m³)	処理前			
			処理後			
		塩化水素 (mg/m³)	処理前			
			処理後			
		弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/m³)	処理前			
			処理後			
	鉛及びその化合物 (mg/m³)	処理前				
		処理後				
	窒素酸化物 (容量比ppm)	処理前				
		処理後				
ばい煙量	いおう酸化物 (m³/h)	最大	処理前			
		通常	処理前			
		最大	処理後			
		通常	処理後			
捕集効率 (%)	ばいじん		99			
	いおう酸化物					
	カドミウム及びその化合物					
	塩素					
	塩化水素					
	弗素、弗化水素及び弗化珪素					
	鉛及びその化合物					
	窒素酸化物					
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		AM9時～ PM3時 6時間/回 1回/日 20日/月	時～時 時間/回 回/日 日/月		
	季節変動		「通年(変動なし)」など	「12月～2月のみ使用」		
排出口の実高さ Ho (m)				15 (口径φ500、傘無)	15 (口径φ500、傘有)	
補正された排出口の高さ He (m)				15.84	15	
排出速度 (m/s)				3.0		

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態（この項において「標準状態」という。）における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 補正された排出口の高さHeは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 5 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添附すること。

工場・事業場周辺の地図



事業場敷地

工場 3

工場 2

工場 1
(ばい煙発生施設
設置)

2階

ボイラー室

煙突

ボイラ 1

ボイラ 2

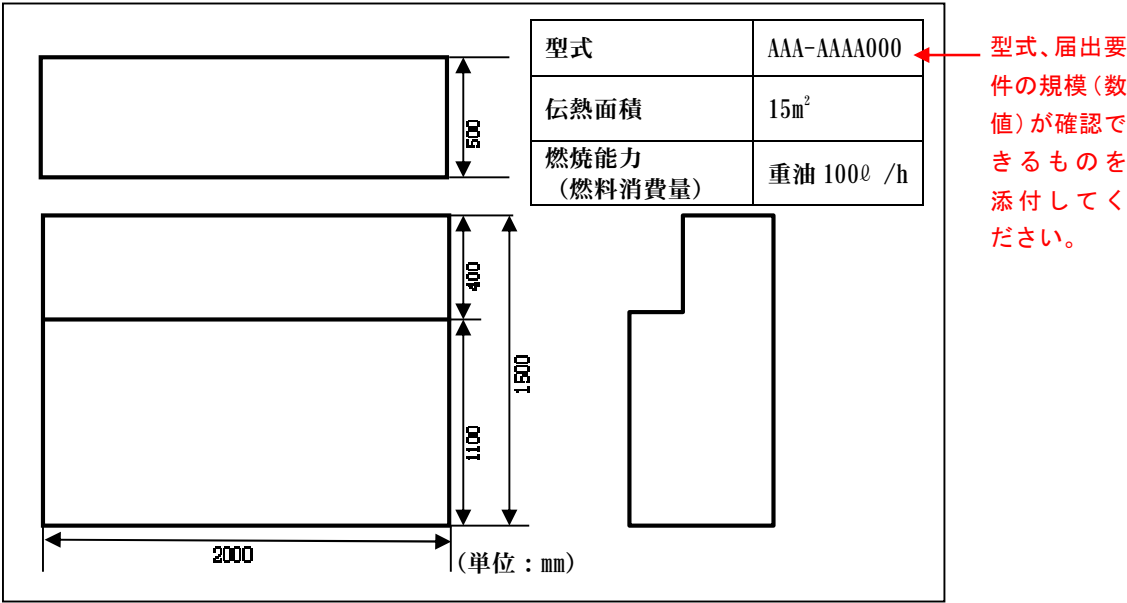
1 階

ボイラ

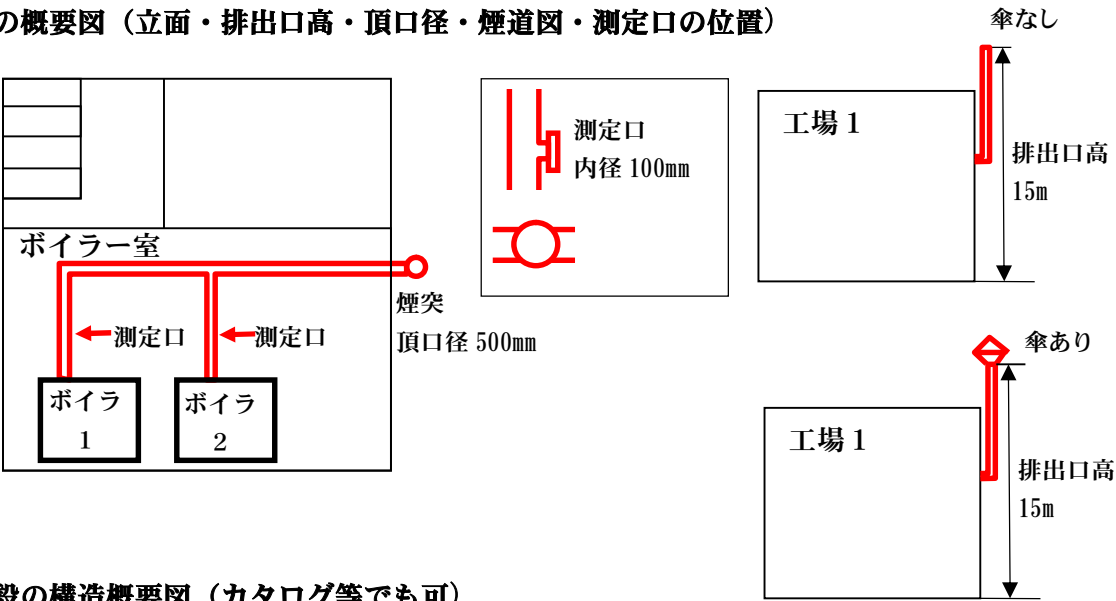
バグフィルター

煙突

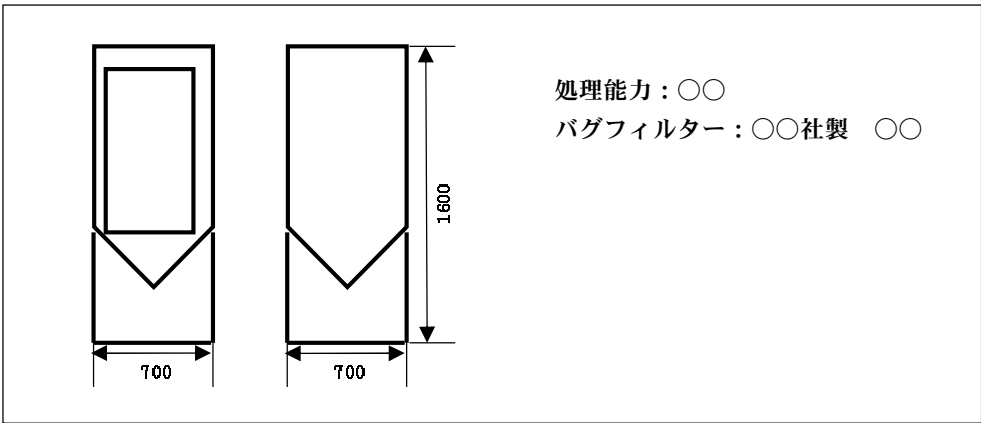
届出施設の構造等概要図（カタログ等でも可）



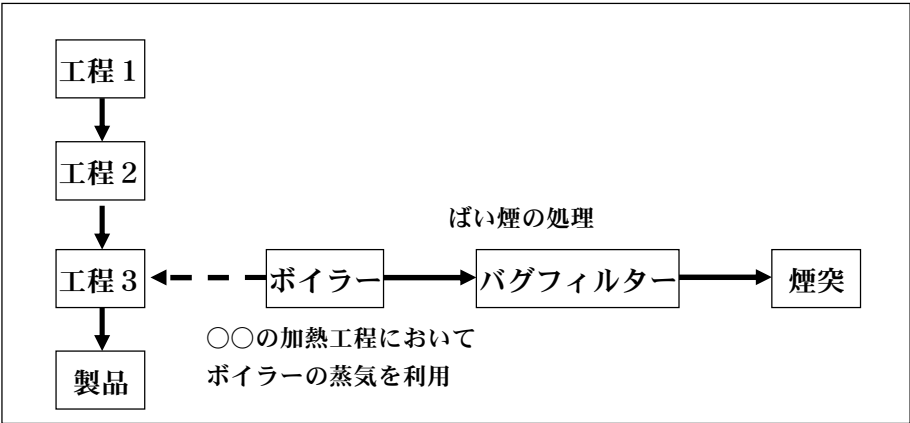
煙突等の概要図（立面・排出口高・頂口径・煙道図・測定口の位置）



処理施設の構造概要図（カタログ等でも可）



ばい煙の発生及び処理に係る操業系統の概要



緊急連絡用の電話番号その他緊急時における連絡方法

株式会社〇〇〇△△工場
〇〇郡〇〇町△△ 1 1 1 1 - 1 1

緊急時連絡用電話番号 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
担当者：△△工場〇〇課 〇〇
責任者：△△工場〇〇課長 〇〇

燃料の分析表

代表性状表	
株式会社〇〇〇石油	
試料名：A 重油	
〇〇：〇〇	
硫黄分：0.088%	← 届出には代表性状値をそのまま記載するのではなく、使用する可能性のある最大値（保証値）を記載してください。
〇〇：〇〇	
〇〇：〇〇	

燃料メーカーが作成した代表性状表等を添付してください。

ばい煙の計算書・濃度測定データ

ばい煙発生施設計算書

施設名：〇〇株式会社製 型式：AAA-AAAA000

湿りガス量（最大、通常）	} の計算式及び計算結果
乾きガス量（最大、通常）	
排出速度	
排出口補正高さ	
いおう酸化物の濃度	
硫黄酸化物量	
その他排出基準適用項目について、ばい煙発生施設製造メーカー等による保証値	

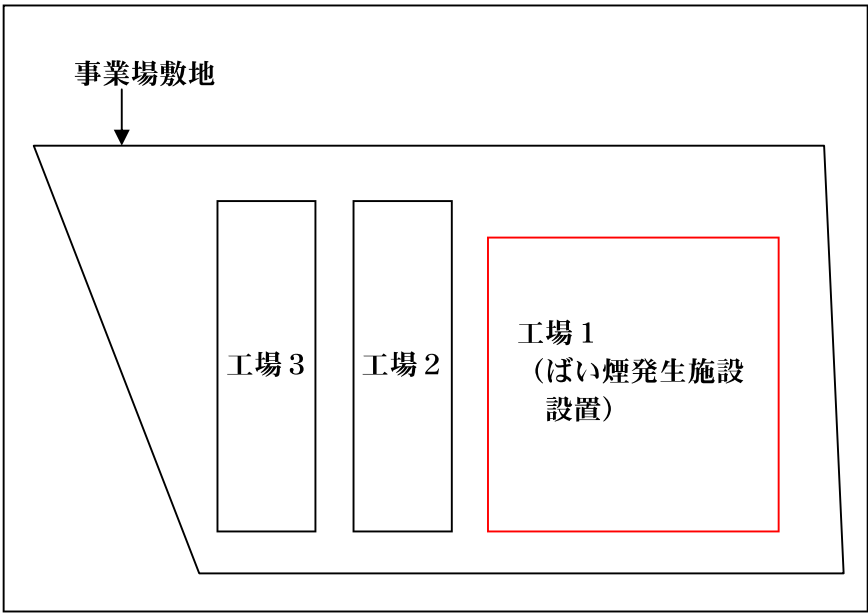
等が記載されたもの

添付書類の例（参考例示のため小さい図面等で示していますが、実際に届出される際は適切な大きさのものを添付願います。）

工場・事業場周辺の地図

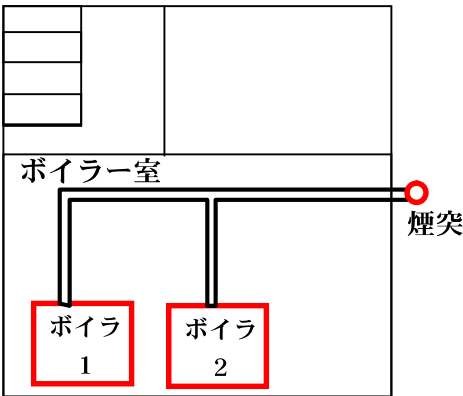


工場・事業場の敷地内の建物等の配置図



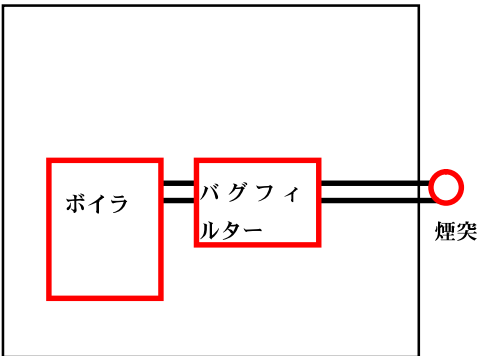
届出施設の設置場所を記載した工場・事業場の平面図

2階

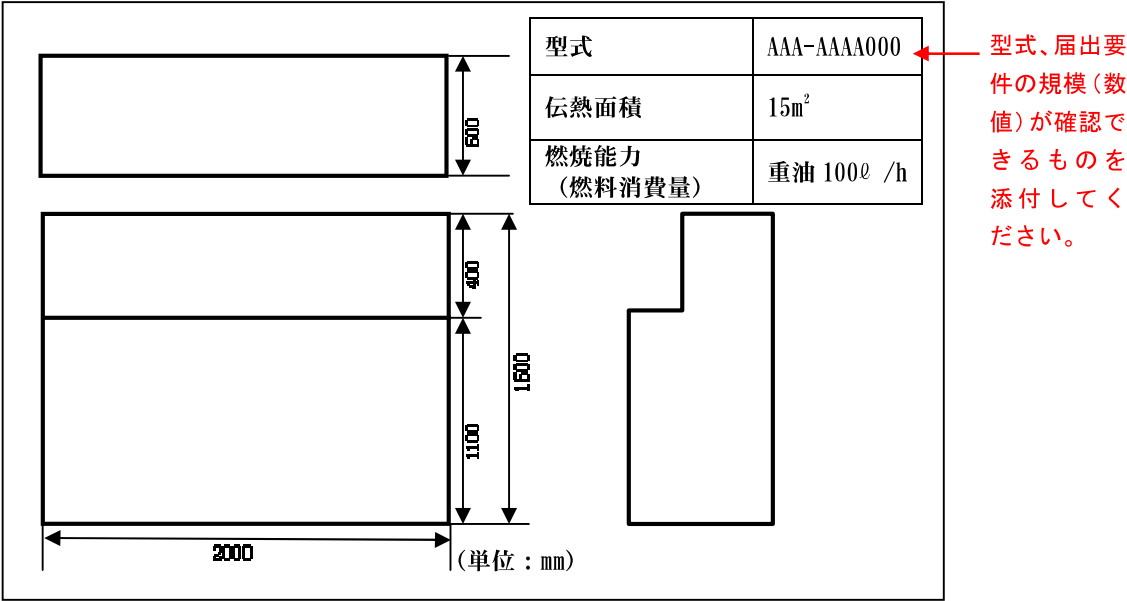


1階

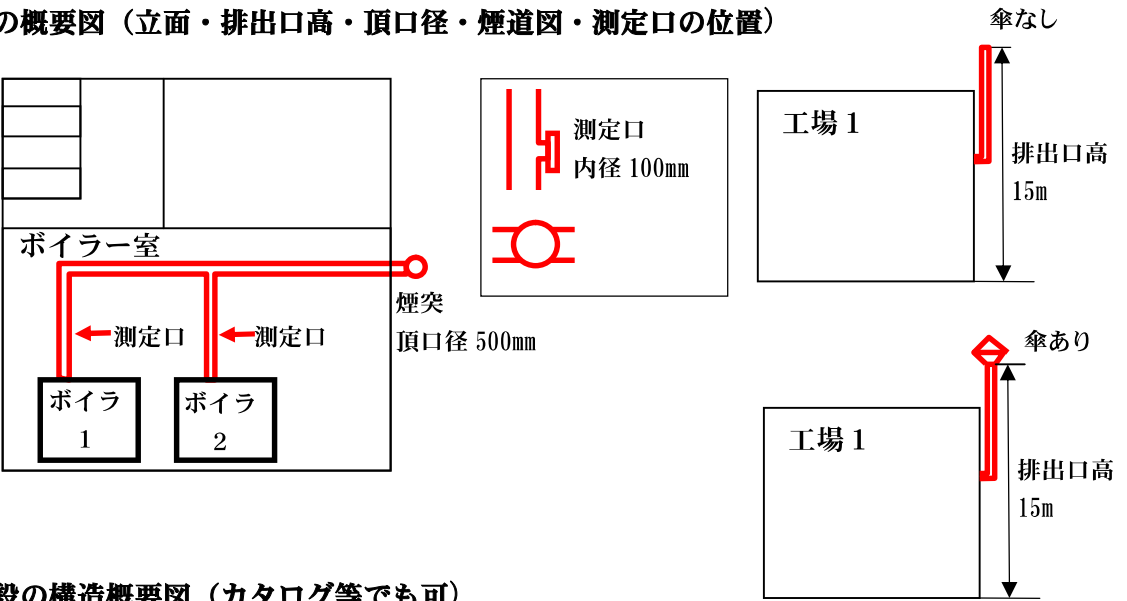
ばい煙発生施設、処理施設、煙突等の設置場所を明示してください。



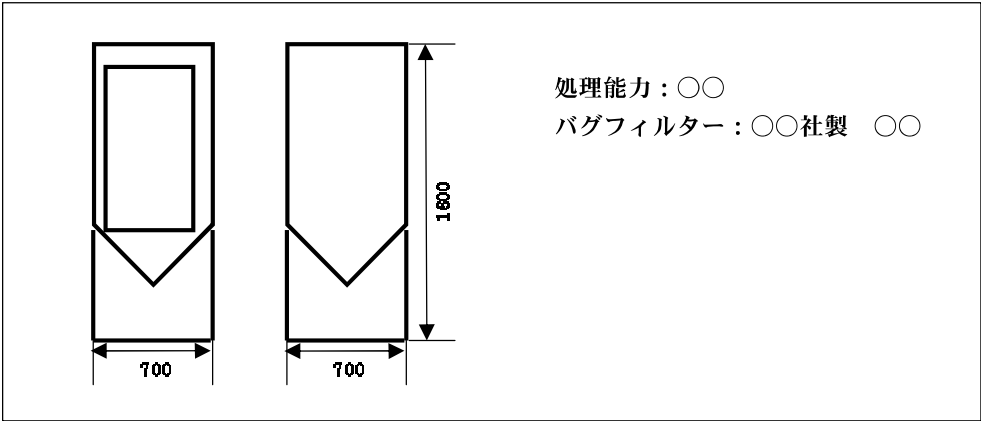
届出施設の構造等概要図（カタログ等でも可）



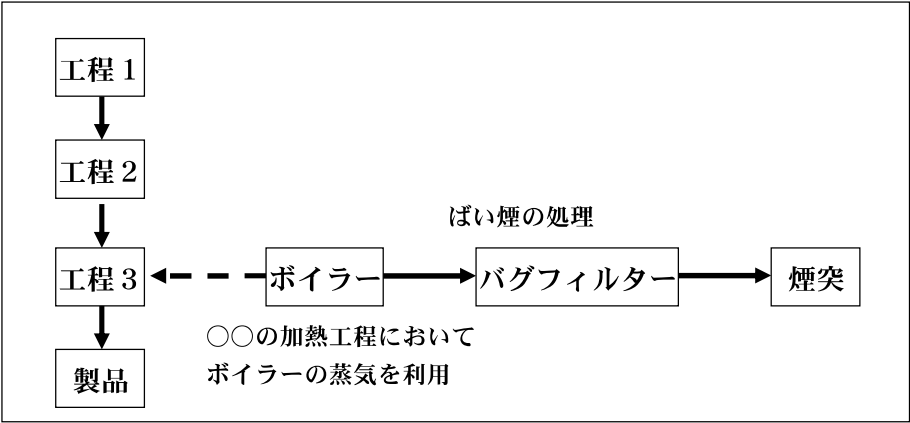
煙突等の概要図（立面・排出口高・頂口径・煙道図・測定口の位置）



処理施設の構造概要図（カタログ等でも可）



ばい煙の発生及び処理に係る操業系統の概要



緊急連絡用の電話番号その他緊急時における連絡方法

株式会社〇〇〇△△工場
〇〇郡〇〇町△△ 1 1 1 1 - 1 1

緊急時連絡用電話番号 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
担当者：△△工場〇〇課 〇〇
責任者：△△工場〇〇課長 〇〇

燃料の分析表

代表性状表	
株式会社〇〇〇石油	
試料名：A 重油	
〇〇：〇〇	
硫黄分：0.088%	← 届出には代表性状値をそのまま記載するのではなく、使用する可能性のある最大値（保証値）を記載してください。
〇〇：〇〇	
〇〇：〇〇	

燃料メーカーが作成した代表性状表等を添付してください。

ばい煙の計算書・濃度測定データ

ばい煙発生施設計算書

施設名：〇〇株式会社製 型式：AAA-AAAA000

湿りガス量（最大、通常）	の計算式及び計算結果
乾きガス量（最大、通常）	
排出速度	
排出口補正高さ	
いおう酸化物の濃度	
硫黄酸化物量	
その他排出基準適用項目について、ばい煙発生施設製造メーカー等による保証値	

等が記載されたもの